

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	東日本大震災「祈り」実行委員会
支援対象者・エリア	東北6県（岩手県、宮城県、福島県、山形県、秋田県、青森県）
企画開催地	福島県川俣町山木屋地区
企画名称	東北復興魂！in 川俣町 ～和魂～（にきたま）
実施期間	2019年3月11日～14日

支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

目的：当委員会発起人である東北のアーティスト“Soul & Beat TEN-CHI-JIN”のレコーディングスタジオやメンバーの津軽三味線奏者 HIRO のお稽古場及び弟子達が被災したことから、コンサートを通しての支援活動を行ってきました。

震災から8年もの月日が経ち、被災地を廻る中、皆さんからのメッセージは、現場を見て欲しい、訪ねてきてほしいとのお声を多く聞くことになり、私達は東北の音で心に寄り添う活動から、東北へのインバウンド招致による復興の活動を行っております。

内容：400年前「慶長三陸沖地震」により疲弊した東北経済の建て直しに、伊達政宗が家臣「支倉常長」をスペインに遣わしたと同様に、私達は東北と歴史繋がりのあるスペインに2018年、65名の訪問団を結成し、マドリードをはじめ当時のサムライ達の子孫（ハポンと名乗る）が650名いると言われるコリアデルリオ市などで、被災地の現状を訴えるコンサートを行いました。私達の訴えは、御来場の在スペイン日本大使、日本政府観光局マドリード所長、在スペイン日西観光協会会長などの心に響き、早速、スペインの旅行会社4社、メディア6社、ユーチューバーなどの視察が次々に行われ、スペインの雑誌に特集が組まれ、国営テレビでも放映、そして日本政府観光局所長自らの視察も実施されました。

2019年8月、22名のハポンさん達の東北訪問の来日も決まり、スペインからの観光客も増える予定です。2年前に来日したフェリペ国王が調印したワーキングホリデー（30歳迄の若者が日本に滞在し、観光やアルバイトなど行い滞在先を発信する）の参加者にも東北をご紹介頂く事になりました。当日の事業内容は以下の通りです。

3月11日

福島県川俣町でのコンサートは、避難地区だった山木屋地区の伝統太鼓のリーダー遠藤元気もTEN-CHI-JINとスペインに同行したので、ご報告のコンサートを行いました。

13:30 開場 お茶会

14:00-14:30 第一部 コンサート TEN-CHI-JIN 演奏 遠藤元気演奏

14:30-14:46 追悼セレモニー 主催挨拶 とんやの郷施設長挨拶

スペインのご報告、日本政府観光局マドリード所長からのメッセージの代読
～黙祷～

14:46-15:30 第二部 コンサート TEN-CHI-JIN と遠藤元気の共演

15:30-16:00 閉会 お茶会

3月12日～14日

福島県内を視察、関係者からのインタビューで生の声をお聞きしました。

早速スペインの日本政府観光局にご報告したところ、政府からは聞こえてこないお話を伺えたとのことでした。

感想：当日は、大雨で交通が不便な場所であることから来場者が心配でした。

しかし高齢の方々は、相乗りの車でご参加、また地区外の方も3割ほど来て下さいました。現地の道路や新しい施設などは出来てきていますが、避難先からの帰還者が少なく、また担い手となる若者は、生業が無いことから戻っていないとのことで、インバンドによる新しい生業の創出も必要です。

福島の畜産業はチャンピオン牛を生んだことで、活性化の兆しがありましたが、川俣シャモ、絹織物など優れた商品の需要はまだ低く、特産品の宣伝不足も感じました。

東北6県は、東京から西と比較し圧倒的にインバウンドが遅れております。

被災地県ではない裏日本にも被災者がまだまだ住んでおり、国からの支援がいきわたっていない裏日本の経済もかなり厳しい現実です。

今後の招致に期待したいと思いますが、東北人が創ってきた自然、風土が壊されないように自治体をはじめ、皆様のおもてなしで美しい東北を守って欲しいものです。

会場の皆様から「よく頑張ってくれた！」などの嬉しい掛け声も聞き、私達はまだまだ必要とされていると感じ、これからも微力ながら東北の音による支援で活動していく事を改めて委員会一同決意しました。

活動の様子（写真など）



スペインのコンサートにて「東北へきて！」



福島県とんやの郷でスペイン訪問を報告



TEN-CHI-JIN と遠藤元気の共演